

私たちは豊かな時代に生きている。どこに暮らして、何を学び、どんな役割で社会に貢献するか、自分で考え、自由に行動できる。だから、親は

私見創見

Thursday

「子どものやりたいことをやらせたい」と語り、子の将来を楽しみにする。しかし、最近の子どもたちは「やりたいことはまだ決ま

っていない」と口にする。『夢が決まらない』『受験生なのに危機感を持ってない』という学習相談も増えてきた。日々、子どもと接してきて、感じ方や抱き方を真面目に分らないと悩んだり、正解を合理的に教えてもらおうと何もせずに待っていたりする姿に違和感を覚える。青森県では例年、夏休み期間に「高校体験入学」が実施される。塾生には可能であれば何校でも申し込み、1校でも多く体験し、徐々に志望校を絞り込むよう話したが、困った表情のままだった。私はまず、「人は経験、つまり繰り返して『したい』と思うようになることもある」と話し、「当たって砕けろ」と板書した。「勉強すべきと考えてみても勉強したいと思えなかったり、いつも一緒にいるうちにいつも一緒にいた

自由と自在

当たって砕けろ！

畑山 篤

志学塾塾長



はたやま・あつし
1960年、八戸市生まれ。明治学院大卒。志学塾を運営しながら、全国各地で講演。「勉強部活」を提唱、放課後学習支援などに関与する。全国学習塾協会理事。

いと思ったりすることはない。と「が明確でない」と「やりたいこと」はなかなか理解できないと自覚したようだ。夏期講習初日の授業で、体験入学の様子を一通り聞いた後、「将来どんな仕事に就きたい？」と投げ掛けた。やはり「3K」と呼んでいると説明した。私たちの生活は過酷な労働に従事する人がいて成り立っている。「さて危険な仕事と？」「と尋ねると、子どもたちは「消防、自衛隊、船、飛行機……」と元気に答えた。「では汚い仕事は？」。真っ先に手を挙げた女子は「泥棒」。次の男子は「詐欺」。拍子抜けしたが、めげずに「きついのは？」と聞いてみた。するとバスケットボール部の女子が「基本」と。確かに部活の基本練習は「きつい」だろう。次の子は「帰れないとか給料が安いとか……ですか。どうも私のもくろみ通りには展開しない。最後に「天は人の上に人を造らず人の下に……」と話した。ほとんどの子が、福沢諭吉の「学問のすゝめ」だと答えた。職業に貴賤はない。ただ世の中を見渡せば、難しい仕事と易しい仕事があり、概して頭脳労働は難しい仕事、肉体労働は易しい仕事とされることが多い。しかし、実は難しいか易しいかは、頭脳か肉体かではなく、仕事で心を遣うかどうかだ」と福沢諭吉は言っていることを教えた。そして「さて、将来やりたいことは？」と話して授業を締めくくった。受講後に「心遣う仕事に就きたい」と9う。

米チム 心臓病の遺伝子修復成功

人の受精卵をゲノム編集

【ワシントン共同】人の受精卵をゲノム編集で改変し、心臓病の原因となる遺伝子変異を高い効率で修復することに成功したと、米オレゴン健康科学大のチームが2日付の英科学誌ネイチャー電子版に発表した。子宮に戻して成長させるのは避けた。ゲノム編集は狙った遺伝子を効率的に改変できる技術。人の受精卵への応用は中国で実施例があるが、米国では初めて。

従来に比べて成功率が大 する際に正常な細胞と異 避けられた。質が良い受精 幅に高まり、受精卵が成長 常な細胞が混じる問題も 卵を選んで子宮に戻せば、

子どもが遺伝病になるリスクを減らせる可能性がある。狙ったのは違う遺伝子を改変するミスや、受精卵が細胞分裂を繰り返した後に異常な細胞がモザイク状に混じる問題もほぼ起きなかった。

チームのミタリポフ教授は「臨床応用を見据え、精度を上げたい」と話した。

ただ生殖に関わるゲノム編集は安全面の懸念が残る上、改変された遺伝子が将

十分な検討が必要だ」と指摘する。

チームは、肥大型心筋症の原因とされる遺伝子変異を持つ精子と、ゲノム編集のための試薬を同時に正常な卵子に注入。体外受精でできた58個の受精卵のうち、72%に当たる42個が正常な遺伝子だけを持つていた。狙ったのは違う遺伝子を改変するミスや、受精卵が細胞分裂を繰り返した後に異常な細胞がモザイク状に混じる問題もほぼ起きなかった。

中国の研究者は体外受精の後で時間を置いてゲノム編集の試薬を入れる手法を

受精と同時に試薬を入れたのが決め手になったらしい。人のゲノム編集については、米科学アカデミーは技術が向上すれば将来容認し得るとの見解。日本は政府の生命倫理専門調査会が子どもの誕生につながる臨床応用は認めない一方、審査を経た基礎研究は容認できるとの姿勢を示している。ただ審査体制が整っていないため、事実上、研究が進められない状況になっている。返答は4月までに完了し、処分が確定した上で、市と青森県に報告した。

障害者福祉施設で職員が40万円着服

青森の藤聖母園運営

青森市の社会福祉法人藤聖母園（三浦裕理理事長）は2日、運営する障害者福祉施設藤ヨゼフハウス（同市）で40代の男性職員が入所者からの預かり金約40

特別養子縁組 年100件目指す

性職員は施設の総務担当で、金銭管理も業務の一つだった。不正発覚は3月で、金銭の出し入れに関する報告に不審な点があったことから法人が内部調査を実施した。返答は4月までに完了し、処分が確定した上で、市と青森県に報告した。三浦理事長は「利用者から陳謝したい。再発防止に全力で取り組む」としている。（田沢奈々）

日、特別養子縁組の他にも、就学前の子どもの施設への新規入所を原則停止